

令和6年度第2回門真市ものづくり産業振興懇話会 議事録

- 日 時 令和7年3月19日(水) 17時～18時21分
- 場 所 門真市役所 本館2階 大会議室
- 出席者 皆川 健多郎 委員(大阪工業大学 情報科学部データサイエンス学科 教授)
赤堀 彰則 委員(守口門真商工会議所 中小企業相談所 所長)
田中 豊 委員(パナソニックオペレーショナルエクセレンス株式会社
総務センター 総務部 部長)
杉本 直紀 委員(株式会社天辻鋼球製作所 総務部 副部長)
牧野 洋一 委員(牧野精工株式会社 代表取締役社長)
大平 昌幸 委員(近畿経済産業局 地域経済部地域経済課 課長)
古田 大 委員(大阪府商工労働部 中小企業支援室 ものづくり支援課
課長補佐)
町田 光弘 委員(大阪府 大阪産業経済リサーチセンター 総括研究員)
- 事務局 山 敬史 市民文化部 部長
高田 隆慶 市民文化部 次長
柏原 佳太 市民文化部 産業振興課 課長
吉田 武史 市民文化部 産業振興課 課長補佐
児島 悠二 市民文化部 産業振興課 主任
川端 俊一郎 市民文化部 産業振興課 主査

○議事録

1. 開会

司 会： 定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第2回門真市ものづくり産業振興懇話会を開催させていただきます。本日は御多忙中にもかかわらず、ご出席賜り、誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます市民文化部産業振興課長の柏原でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日、委員10名中8名が出席されており、過半数を超えておりますので、門真市附属機関に関する条例施行規則第5条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

まず本懇話会の公開・非公開につきましては、昨年度開催いたしました第1回の懇話会において公開と決定しておりますので、本日の会議は公開となります。また、議事録を作成させていただくために会議を録音させていただきますので、ご了承のほどよろしく願いいたします。

それでは会議に先立ちまして、お手元にお配りしております資料のご確認を

お願いいたします。まず初めに、1枚目が本日の会議次第でございます。

次に資料1-1 門真市ものづくり産業振興計画アクションプランについて

次に資料1-2 門真市ものづくり産業振興計画アクションプラン

最後に資料2 門真市ものづくり産業振興の取組みでございます。もし不足の資料がございましたらお申し出ください。

それでは、以降の進行は会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

2. 案件

(1) 令和6年度におけるものづくり産業振興施策の進捗について

(2) 令和7年度以降のものづくり産業振興施策について

会 長： はい。それでは、次第の2、案件1令和6年度におけるものづくり産業振興施策の進捗について及び案件2令和7年度以降のものづくり産業振興施策について、を一括して進めたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

事 務 局： はい。門真市産業振興課の児島と申します。私から説明をさせていただきます。恐縮ですが、着座にて説明させていただきます。

まず資料1-1門真市ものづくり産業振興計画アクションプランについて及び横長のA3の資料1-2門真市ものづくり産業振興計画アクションプランをご覧ください。

今年度、第1回の懇話会におきまして、委員の皆様より、このアクションプランに対しまして、ご意見、アドバイスをいただいたものを事務局でまとめさせていただきました。こちらにつきましては3月17日に各委員の皆様へメールにてお示しさせていただきましたところでございます。改めまして、ご意見いただきましてありがとうございます。アクションプランにつきましては、令和6年度中に策定を行いまして、門真市ものづくり産業振興計画の着実な推進を図ることで、地域経済のさらなる活性化に寄与するものと考えております。それでは資料2門真市ものづくり産業振興の取組み、こちらのA4で綴つてある資料をご覧ください。

まずこの資料のご説明をさせていただきます。先ほどのアクションプランにおいて定める重点アクション、アクションの重点化を行ったものですが、皆様にご確認いただけますよう、重点アクションごとに事業概要や令和6年度の実施内容、こちらは令和7年2月末まで、今年度終わっておりませんので、2月末までの実績を記載しております。そして7年度の予算に関する計上額について記載したものでございます。先ほど申し上げました、重点アクションの設定

につきましては、アクションプランでは全45項目、アクションがあるのですが、そのうち、再掲を除き、15項目に絞り込みまして、「重点アクション」に設定しております。この資料に記載しております、予算計上額につきましては、職員の人件費は含まれておりませんので、あらかじめご了承くださいませようお願いします。本日の議題でございます、令和6年度における施策の進捗に対するご確認、評価、そして令和7年度以降の施策に対するご意見などにつきまして、本資料を中心に説明いたしますので、これを基に議論いただければと考えております。

では中身に入って参ります。まず最初に目次がございまして、内容といたしましては7ページから始まります。7ページ以降に先ほど申し上げました15項目のものづくり産業振興の重点アクションについて、できるだけ1枚のスライドにまとめて記載しております。今回、15項目あるのですが時間の関係上、特に本市の特徴的な取組みであるとか、重点的に特に取り組んでいるところを中心にピックアップして、これからご説明させていただきたいと思っております。

資料の8ページ、右下にページ番号振っております、8ページのスライドをご覧ください。

こちらは、重点アクションの02、こちらはGX推進の観点から「外部機関、支援機関との連携・支援制度活用促進」です。本市はゼロカーボンシティ宣言をしております、その実現に向けまして、中小企業様、とりわけエネルギー消費量が多いと言われる製造業のGXをいかに進めるか、ということが課題になっております。日頃から企業様に近い立ち位置で支援を行っておられる金融機関の提案力、支援力の向上に向けて、取り組んでいるというのが中心の内容になっております。令和5年度につきましては、近畿経済産業局様、近畿地方環境事務所様とコラボしまして、こちらは左のスライドの上の方になるのですが、支援体制整備ということで、地域金融機関の若手行員を中心に、まず企業のカーボンニュートラル推進に向け、制度をインプットしたり、どのように活用・提案できるかということをしミュレーションするワークショップを実施いたしました。そして、この下側になります、企業支援の実践と書いてあるところが、令和6年度の実践になります。こちらは引き続き近経局様とコラボしまして、近経局のいわゆるモデル事業として門真市をお選びいただきまして、市内の金融機関2機関と連携し、金融機関の支店での個別勉強会を開催したり、また実際に企業へ金融機関と近経局の担当者、市で訪問し、排出量見える化支援やカーボンニュートラルの施策の紹介など、金融機関での支援モデル確立のための試行的な取組みを実施したところでございます。後ほどご説明する、市の魅力アップ補助金につきましても、今年度からカーボンニュートラルへの支援の補助金を追加しましたけれども、そちらの活用を進めるため、

「OSAKA ゼロカーボン・スマートシティ・ファウンデーション」といった法人がございまして、そちらとの連携を今年度開始いたしまして、意見交換等を実施しているところでございます。令和7年には、「カーボンニュートラルの推進であったり、中小企業版S B Tの取得促進に向けたセミナーを同法人とコラボいたしまして、実施に向け調整しているところでございます。カーボンニュートラル、特に中小企業様のG Xにつきましては、関係機関とタッグを組み合わせながら進めていきたいと考えております。ちなみに令和7年度の予算計上額は0円となっております。

続いてのスライドになります。14ページをご覧ください。

重点アクション05「門真市中小企業サポートセンターによる相談・支援」でございまして、こちらは、平成24年に開設いたしまして、市の委託事業として専門のアドバイザーが様々な中小企業様の経営課題の解決に当たる機関になっております。ものづくりの中小企業、基盤産業である製造業、そこに携わる企業様を中心に訪問による相談支援に重点を置いております。今年度ですが、主催のセミナーを毎月開催するようになりまして、補助金の説明会やD X化、カーボンニュートラル、事業承継、展示会の活用であったり、求人を出すコツのセミナーや、経営者保証のガイドラインに基づいて保証債務を解除していけるよという制度をご紹介したり、説明していただいたり、B C P、マーケティングや、創業のセミナーなどを開催しております。プレゼンでの話し方のコツなど、プロのアナウンサーをお呼びし、営業力の向上に資するようなセミナーを企画しております。セミナーの内容はものづくり産業振興計画に沿った、そして、企業様のニーズに応じたテーマを設定して、引き続き実施して参りたいと思います。令和6年度の実際どれだけのお客様の相談を実施させていただいたかという相談件数でございまして、こちらの集計は今年度終わってからという形になります。K P Iにつきましては、このスライドの左下、令和6年度、中小企業サポートセンターの相談件数ということで、1,200件を目標としております。今年度は前年度より高い水準で推移しておりまして、K P Iとしては達成するという見込みになっております。これまでは、いわゆる既存の中小企業サポートセンターの事業になるのですが、計画にもありますとおり、門真市駅前前の再開発、今サポートセンターがまさに立地するところではあるのですが、そちらの再開発を睨んだサポートセンターのアップデートを含みます、いわゆる「次世代ものづくり支援拠点」をいかに整備するかということにつきましては、我々、市の職員で、令和5年度に大田区様、6年度には堺市様と7年度には名古屋に行きまして、それぞれのインキュベーションであったり、スタートアップの支援施設であったり、そういった先進事例を収集しております。並行して委託事業者になりうるような複数の民間事業者とも意見交換を行って

いるところがございます。こちらは再開発の動きとあわせて、引き続き具体化に向けて検討していきます。令和7年度の予算計上額につきましては、3,143万円になっております。こちらはサポートセンターの委託料、その他運営の費用となっております。

続きまして16ページをご覧ください。

こちらは重点アクション06「門真市ものづくり企業ネットワーク支援による企業間連携の促進」です。門真市ものづくり企業ネットワークが平成24年に発足いたしました、ものづくり企業と門真市と関係機関の官民連携のネットワークでございます。今年度13期を迎えております。門真市としては、この会の世話人を構成するとともに、サポートセンターと一緒に、ネットワークの運営の支援を行っております。具体的な活動といたしましては、1枚めくっていただければ、参考のスライドがございます。年1回の会員大会です。会全体を円滑に運営するための世話人会というものを組織しております。定例会といたしまして、企業間交流のベースと我々も位置付けておまして、原則、月1回、第4水曜日に開催し、企業プレゼンを通じて企業様同士が知り合うということであったり、我々の方から施策の情報提供、こんな補助金が出ますよというようなことも情報提供する場として開催しております。部会といたしまして、企業様同士で共通の課題解決のために、集まってやっというところで、2つの部会が今立ち上がっておりまして、人材確保・育成事業部会、そして生産性1.5倍部会があります。今年度新たな取組みといたしまして、19ページです。門真小学校放課後児童クラブで、ものづくり体験を実施させていただきました。子どもたちに割り箸鉄砲の製作を通じてものづくりの楽しさであったり、ものづくりへの興味、憧れを持ってもらうように、ものづくり体験実施し、お昼にはバーベキューをふるまわせていただきました。こういった活動を通じて、将来のものづくりの担い手が1人でも増えることを期待し、少し長い投資にはなりますが、そういった活動も行っております。現在会員企業は101社でございます。こちら自体は順調に増加していますが、課題といたしましては、参加企業が固定化していることと認識しております。会員大会と、定例会の平均参加率を計算しますと、令和6年度は9.7%になっております。今後、門真ネットとも連携し、企業同士が繋がることなど、メリットの訴求や、情報発信などを通じて数字を向上させたいなと思っております。令和7年度の目標値としては、14%ぐらいに持っていきたいなというふうに考えております。令和7年度の予算計上額につきましては、門真ネット事業では4,000円になっております。

続きまして23ページのスライドをご覧ください。

重点アクション09「学校等教育機関、職業訓練機関等との連携」でございま

す。この項目につきまして、27 ページの重点アクション 12「オープンファクトリーイベント、ファクトリズムへの協力及び参加企業への支援」と、重なる部分がありますので、あわせて説明させていただきたいと思っております。門真市産業振興課では、近年、近隣の学校等教育機関と、いわゆる産学官連携を進めております。令和2年度から、八尾市など他の市町村と協働して実施しております。オープンファクトリーイベント、こちらは、ファクトリズムと銘打っておりますが、こちらには引き続き市内企業からも参加しております。令和5年度から新たに門真支部の実行委員会を立ち上げております。産学官連携の取り組みとしましては、特にこのオープンファクトリーの中では顕著に進めております。24 ページに掲載しておりますが、寝屋川にある大阪高専さんには門真支部のパンフレットや、オープンファクトリー「ファクトリズム」の市民向けの案内パンフレット、オリジナルリーフレットを制作いただいております。そして門真なみはや高校さんは、生徒さんの授業の一環といたしまして、ものづくり企業を自分たちで取材をし、そこで見た現場の様子や経営者様の思いを1枚のビジュアルの仕上げようという事業でございまして、ポスターとして制作いただきまして、古川橋駅前のリニューアルしましたショッピング施設「そよら」、機械要素技術展大阪の展示会にて掲示させていただきました。今年度は、新たに摂南大学さんに、プロジェクト授業「F A L」フィールド・アクティブ・ラーニングの略になりますが、こちらで授業として、ファクトリズム参加企業のイベント運営への参画をしていただきました。23 ページの学生発表の写真があるのですが、実際に企業様に学生が入り込みまして、若い視点といただきますか、どうすればお客様に来ていただけるか、楽しんでいただけるだろうか等の企画の運営であったり、当日インスタグラムで動画を発信したり、企業様からは非常に刺激になったと聞いております。そういった形で学生にファクトリズムの運営の支援に携わっていただきました。あと大阪国際大学さんともコラボしてございまして、ゼミの授業への出張講義、ものづくりの企業様が大学に出向き、オープンファクトリーの趣旨であるとか、想い、必要性などについて講義していただきました。今年度は初めて優花祭という大学祭で、ものづくり体験のイベントを実施いたしました。以上がファクトリズムでの産学官連携の取り組みになります。その他の連携といたしましては、令和7年の4月になるのですが、門真ネットの定例会に、ポリテクセンター関西さんの見学会を予定してございまして、この施設のさらなる活用、リスキリングの促進であったり、専門人材の獲得などにゆくゆくは繋げていきたいと考えております。オープンファクトリーへの参加企業数ですが、現在11社になります。オープンファクトリーのK P Iですが、令和6年度は総来場者数を401人達成してございまして、令和7年度もほぼ同水準の405人をめざすということにしております。学

校教育機関との連携、ファクトリズムも含めまして、予算計上額、こちらも0円となっております。こういった学校等教育機関と職業訓練機関等と連携することで、教育機関でのキャリア教育の内容の充実や就職を考えている生徒・学生さんへの製造業へのイメージアップや、企業様と学校、先生、生徒との距離を縮めることは、企業の人材確保にも資する取組みである大切な取組みであると考えております。こういった大学や高専様との連携活動を通じ、学校との信頼関係を築くことで、本来の産学連携という表現が正しいかわかりませんが、研究開発やイノベーションといった産学官連携にも繋げていきたいと考えております。

次は、29 ページです。

重点アクション13「大阪・関西万博でのPR」です。大阪・関西万博の開催まで1ヶ月を切っている状態の中でございますが、門真市も出展をいろいろ計画しております。その中でものづくり企業も、門真市を代表する魅力の1つとして、出展を計画しております。出展イベントとしましては3つございまして、まず、大阪ウィークは、大阪府が全43市町村の面白さをPRするものになっておりまして、もちろん門真市からも展示をさせていただくこととなります。一つ目は「みなはれゾーン」というものがありまして、こちらはいわゆる展示です。そこで市内のカドマイスター企業の製品・技術等を展示することを予定しておりまして、現在15社が出展いただく予定です。こちら7月に開催いたします。2つ目は、同じく大阪ウィークですが、こちらは「やりなはれゾーン」で、体験型のゾーンです。ものづくり企業さんの技術を生かした、プロが教える簡単ワークショップということで、子どもさんも多く来ていただければいいなと思っています。こちらはファクトリズムの参加企業から市内の企業2社が出展される予定です。こちらも7月に開催予定です。3つ目、大阪ウィーク「レギュラーイベント」で、リングの外側にあるギャラリーEASTという広めのホールで門真市が3日間、カドマイスターの製品・技術の展示と、ワークショップを計画しており、カドマイスター企業から23社出展いただく予定となっております。こちらは9月の開催になります。現在は出展企業の募集は終了しまして、開催に向けてどういった見せ方にするか、ファサードにするかなどを検討しているところでございます。

最後になりますが、32 ページ以降です。

その他施策ということで、2つ挙げております。こちらは重点アクションには設定はしておりませんが、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業になります。まず、門真市の「職住近接のまち」実現のための企業魅力アップ事業補助金制度です。内容は、働きやすいような職場環境を整備したり、リクルート用のページを作り、その魅力を求職者の方々に発信を行うなど、そ

ういった企業の創意工夫の取り組みを広く補助する事業となっております。令和6年度からは、カーボンニュートラルといたしまして、省エネ最適化診断にかかる費用と、中小企業版SBTという、脱炭素の承認制度がございまして、そちらの取得をしていただく費用を補助する制度です。こちら令和7年度、引き続き実施いたします。

続いてその他施策といたしまして「カドマイスター企業展示会合同出展事業」です。インテックス大阪で毎年開催されます、西日本最大と言われる専門技術展示会、機械要素技術展大阪に出展する予定となっております。今年は、令和7年10月の開催に出展予定です。令和6年度は、ファサードの写真にありますとおり、キャッチーなものに変えまして、事前にSNSによる広報や、当日もプロの実演販売数を起用し、誘客を実施いたしました。

令和7年度は、ちょうど万博が終わりかけのころ、会場は咲洲なのですが、ちょうど横の島、夢洲で万博が開催されるということで海外からの来客が見込まれます。多言語対応など、準備を万全に臨みたいというふうに思っております。

以上でございます。駆け足かつちょっと雑ばくな説明になりました。ご清聴ありがとうございました。

会 長： どうもありがとうございます。ただいまのご説明について何かご質問、ご意見等をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。なにぶんボリュームがたっぷりありますので。

委 員： 説明ありがとうございました。門真市ものづくり企業ネットワークの参加率が低いというのがありました。確かに、そのとおりだなと感じています。サポートセンターさんはセミナーを色々やられていますが、セミナーを参加してみると、参加者が思ったより少なくて毎回思うのですが、情報の発信の仕方や伝え方に工夫が必要なのかなというふうには感じています。メールは来るけど要望を聞いてセミナーを開いてるはずで、結構、みんな興味ありそうな気がするようなテーマでも、あまり人が集まらないっていうようなところが気になりました。

事 務 局： そうですね。ご指摘のとおり、サポートセンターのセミナーについては、列挙させていただいたのですが、参加率については、我々も低迷しているという認識はしております。ひとつそうですね。補助金の説明会とか、結構企業様がメリットを大きく感じられるっていうテーマに関しては、メールマガジンの発信でのレスポンスも結構感じる場所があるのですが、行政が言わなければな

らない。耳の痛いというかですね、BCPであったり、GXとかもそうなのかもしれないのですが、我々行政が積極的に呼びかけるものについて、どうやって出てきてもらうかという内容については、参加率も低迷するところもあってですね、情報発信の仕方というのは少しどうしていこうかなという、検討していたりするところですし、この場でもご意見やアドバイスをいただけたら幸いかと思っております。中小企業サポートセンターの方がチラシを持って、やはり訪問の相談支援が中心なので、その時には結構渡して、周知はしてるのですが、聞くわってというお返事をいただいているなかで、なかなか、お時間の都合とかそういったものもある中でですね、オンライン視聴も含めて参加にちょっと結びついてないといった課題がございます。何かこう、こうすればいいんじゃないかというご意見とか、そういったところをアドバイスいただければ、非常にありがたいです。

委員： 良いか悪いかわからないですけど、みなさんに気をつけて、開催時間が18時からで就業時間後になっていると思います。開始時刻を13時とか15時からとか就業時間内にした方が参加しやすい人が、いるのかもしれないと思う。あとWebでも参加できるようにしていただいていることが多いのですが、Web環境が、聞こえにくいとか、Web環境を工夫いただいたほうがいいのかなという気はします。

事務局： ありがとうございます。Web環境に関しましては、しっかりと確認して実施してまいります。時間帯をずらすということを企業様に、改めてご意見を頂戴した上で検討していきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

会長： GXもかなりですね、企業間によってレベルが違うような気がですね、前段のDXが進んでいるところであれば、いよいよGXということでしょうけど。そういう意味で、進め方とかステップ、ですからこのすべての重点アクションがずらずらっとあるのですが、どうもこの前後関係が本当はあるのだと思うんですよね。その辺もちょっと1度整理してあげたほうが、企業側としても参加しやすいし、こちらとしてもまずどこに力を入れるべきかというのが見えるのかなと思っていました。どうでしょうか。

委員： 今のセミナーへの参加の話ですが、メルマガを撒いている中から、補助金や直接的にメリットがありそうなものについては、一定の参加数はあるということでした。それであればメルマガは、見てもらえていることだと思います。

一方でBCPやGXなどは参加率が悪いとのことですが、メルマガを見てもらっている人が、なぜスルーするのか。補助金は参加するが、そうでないものは参加しない。企業にその理由を聞いて回り、分析しないと改善できないと思います。耳の痛い話だから参加しないということなのか、GXと言われても、自分たちの会社の中のカーボンニュートラルを進めるってということなのか、これから商売をしていく上で取り組まないといけないことなのか、それによって反応も変わってくる。そういうことを企業がわからない中で、GXとだけ言われてもなかなか行く気にならないということなのかもしれない。メルマガを配って来ているところのうち、補助金は来るけど、他では来ないという人に話を聞いて分析していてもいいのかなと思います。あと、耳の痛い話っていうのは、メルマガを撒いただけではなかなか響かないかも。やらないといけないのは、わかっているけども、取り組みの優先順位としては低いものってあるはず。今、人材の仕事をしています、人材課題がたくさんあって社長は取り組みたいと思っても、まずは現場を回すことが先とか、お客さんからの発注が最優先になっていて、取組が後回しになっているといった話をよくききます。だからそういうものに関しては、誰かが背中押してあげないとなかなか取り組めないと思う。そういうのも、1つの原因にあると思う時にですね、もりかど支援機関ネットワーク、20ページの説明が一切なかったのですけども。金融機関と連携しているのであれば、ものづくり企業ネットワークはものづくり企業ネットワーク、サポートセンターはサポートセンター、ということではなく、こういうところを全部巻き込みながらやっていくとうことが大事では。背中を押す役割っていうのは支援機関だと思うので、支援機関ネットワーク、ものづくりネットワークとか、あとはそのサポートセンターの事業があって、コラボしたイベントはありだと思うんですね。縦割りで事業を考えるのではなく、使える資源はどんどん使って行って、参加率を増やしていく、そういうことをやっていくのも一つではないかと思いました。

会 長： ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委 員： GXとかDXとかそういうセミナーに関しては、みんな1回、2回は聞いていたりすると思う。1回も聞いたことがない人が対象なのか、今回のセミナーはどこにポイントを当てているのか、というところをメルマガで書いてもらえると、それなら行こうかなとか、それなら今回はいいかなとか判断ができる。GXについてとやらないといけないですよと言われると、ちょっと大きすぎたりすることがあるのかなという気はします。

委員： 商工会議所のほうでも人を集めにくいテーマのセミナーはあるということは共感できるんですけども、例えば脱炭素のセミナーを去年やらせてもらったんですけども、普通に例えば見える化っていうテーマやったら、多分集まりにくいやろうな、と思ったので、サプライチェーンの中で脱炭素のどういったことが求められているのかなど、新しいサプライチェーンに入り込もうという切り口で、脱炭素やってみようかなとなるようにやらせてもらっています。先ほど委員からも話があったと思いますが、見せ方というか、切り口というかを我々も考え直す必要があるかと思っています。

会長： 個人的にも改めてよく見てみると、やはりDXもGXもどちらかという設備更新なんですよ。なんかちょっとそれしかないみたいですね。もっと生産性を上げていくためにデジタル技術を活用してとなると、単なる設備投資ではなくて、やはりプロセス改善をしっかりとしないといけないのに、肝心のサポートセンターとかですね、もうちょっとそこはリードしてくれると私はいいのかなと。だから、結局何か設備投資してデジタル化をして設備投資してGX化して、だから金融機関もついでに、行政機関も補助金の説明してくれるよ。だから結局何かコストアップの支援になってしまって、ちょっとこういう言い方をしちゃいけないかもしれないんですけど、企業側としてはやっぱり省エネ、節電して、コストダウンをしたいとかですね、オペレーションコスト下げたいとか、生産改善して、省人化したりだとかですね、なんかそういう匂いがなんかあんまりしないんですよ。ですから、そういうこともちょっと合わせながら、本当は大事なかなあと感じますね。それで、どうせ投資しないといけないんでしょみたいなんだと、ちょっと中小企業さん、二の足踏んじょうのかなと、改めて見ながら少し思いました。

委員： 弊社内のセミナーもそうなんですけど、1時間半のセミナーにリアルで出ると言われても、実際参加される方の率がぐっと下がってきて、それこそ責任者、担当者しかなか参加できなくて、現場のメンバーで参加しにくいんですけど、講演者の方の権利の関係で難しいのかもしれませんが、例えばセミナーをテーマごとに分割して一定期間、1週間なら1週間、ホームページで公開するとか、そういうことをしていただくと、例えばその10分とか20分のそのパートについて自分の興味のあるパートをばっと見て、自分の空いた時間を見て、また次を見たければ次のパートってこともできるんで、そういう意味では録画参加可能にいただくと、多分アクセスされる方は増えると思いますし、それをまた1.5時間丸ごとされると見た瞬間に引くものがありますんで、できればテーマごとに分けて、アクセス可能にいただける

と。見る側としてはすごく助かるかなと思いますので一度、ご検討いただくようをお願いいたします。

事務局： ありがとうございます。

会長： ちょっと個人的に前もお伺いしたんですけど、重点アクション作りながらかなり予算が、数千円とか0円というのがあるのは、先ほどのように、市役所さんの人件費が入ってないということでありますけど。例えばこの企業ネットワーク 4,000 円、これは何なんですか。

事務局： これは旅費職員の普通旅費で、例えば門真ネットの関係で、関係機関などに電車乗っていくときとかの旅費などです。

会長： 実質的に運営はもうほとんどこのネットワークが皆さん手弁当でやってらっしゃる。

事務局： そうですね、参加企業様に関して、例えばこの門真まつり出店であったりとかですね、先ほどのものづくり体験っていうのも、協賛金で会員さんから協賛金をいただいて、それで運営しておりますし、活動ご参加いただくっていうのも経費もかからないボランティアという形に、企業様にはご負担ある程度いただいている形になりますね。

会長： そういうやっぱり得られるものがないとなかなか、続かないし、新しい人も入ってこないというのはことなんですかね。具体的に、ここに入って、皆さんどういうメリットがありますか。これは委員さんにお伺いした方がいいんですかね。

委員： そうですね具体的に、そんなに凄い成果が出ているわけではないですけど、まず門真ネットという集まりで、ぼんと集まったときに、お互い知らない会社があって、その中でこういうのを探してたという企業があったりして、域内での取引っていうのは出てきている。それを何とか公表できないかなとは思ってはいるんです。

会長： 域内取引がちょっと増えて、感覚的にそういうふう感じてらっしゃるということですか。実際にあるということですか。

委員： 実際にあると思います。

会長： そういうところを、いくら売上がどんどん変わってるとかですね、いろいろとあんまりそれを目当てに来られても困るんですけど。

委員： それがひとつと、101社あって実際に動いてるのは20社ぐらいかなと思うんですけど、20社は互いに親密になってきているので、部会という名前で、生産性1.5倍部会ですと、互いにアドバイスをしたり。例えば自然乾燥しかやらないところがあったとすると、ブース入れればいいじゃないと、ブース入れるだけで凄い生産性が上がったり、縫製をやられてミシンを使っているところには、こんな治具が作れるよとアドバイスして、うちや、ものづくり企業が実際に治具を作って渡したりしたら、また生産性が上がったりとか。やっているところはいろんな意見交換の中で生産性が上がっているところはあるんですけど。それが全体にうまく伝わっていない気がしていて、他の80社がどういうことを望んでいるのかなというのが、ちょっとわからない。会費も取っていない、協賛金も参加してもらえぬ方は協賛してくださいねという形で、払いたくない人は払わなくていいというシステムにはなっているんで、そういう意味では、籍だけ置いているという人もいるかもしれない。

会長： ありがとうございます。

委員： 去年この懇話会で計画を作るときにアンケートを取ったのっていうのは、あれは市内全企業ですかね、ネットワーク企業に対してということではなかったですよ。

事務局： 全企業ですね、全企業に送付しまして、回収率は前回ご報告したとおり、25%ぐらい。

委員： いや、それでいくと先ほどセミナー云々の話を申し上げましたけど、聞いていくということではないんでしょうかね。参加してるところは、委員にこういうメリットありましたと声が届いている。こういう取引が生まれて助かってます、とか自分の会社だけでは作れなかった治具を使って生産性があがりました、こういう声を集めて発信するのも一つですし、参加していないところはこういうところに不満を持っているのか、どういうことだったら参加するよ、というのを聞いて、反映できるところは反映していけばいいと思います。無理に参加してもらわないと思うんですけど、主体的に参加してもらうように、こ

ういうことやりたいのでしたら、我々も呼びかけしますから、やりたいこと、やりませんかねと、こちらから持ち掛けてもいいと思います。なんで参加しないのだろうと、推測で言っても何も始まらないので、そういったことをやっていくのは一つの方法ではないかなと思います。アンケートをとって、回答した先に先ほど申し上げたようなことを聞きに行く。予算をかけずに出来ることなのでフットワークを活かして取り組むのも良いと思います。いずれにしても、予算をかけずにこれだけの事業やってるってのは、他市ではあんまりないように思う。これは地道に企業なり、支援機関とのネットワーク、関係を作ってきたことが、大きい。この土台をどう生かしていくかというのが、門真らしい取組なんだと思うのです。お金かけてやっている取組みは他市町村でも、ありますけども、お金かけずにやれる仕組みを持つてると所というのは、なかなかない。本日の資料を見てても、説明のあったところって予算を使わずに自分たちで汗をかいてるところが多かったように思います。そこをさらに強化するってことが重要では無いかと思います。

会 長： ありがとうございます。金額の少ないところは門真市役所の皆さんが汗かいてらっしゃる。その他いかがでしょうか。

委 員： 一般、普通の企業の活動の動きとしては、課題が生まれたときに、大体いろいろな業者を探したり、つき合いの中で探すというのが普通の動きかと思うんですけども。せっかくこういうことで行政が絡んでいただいて、というところがやっぱりこの活動の1つのメリットだと思うんで。そこを、今回は、行政さんはこういう役割でメリットがありますとか、そういう、アピールポイントも、できるだけ掲載していただくと、その価値があるのかな、と思います。

会 長： ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

事 務 局： 先ほどの域内受発注をどうフォローアップするかというところで、我々サプライチェーンの見える化まではいかないんですが、域内どうお金が動いてるか、それが門真ネットでしたらネットでの出会いによってどうやって増えたか。非常にちょっとどういうふうに可視化したらいいかなってというのが昔からなかなか悩んでるところでありまして、すいません。委員、その辺りのなんかこう、何かアドバイスというか、こういった部分が使えるとか、アンケートするならばこういうふうなことが考えられるよってなって、何かご知見をいただければと思います。

委員： 域内ネットワーク内での受発注は、そんなには多くはないと思うんで、事例を集めて、こんなのがありましたよ、ぐらいしかないかなと思うんですけど。ただ、ネットワーク域内の企業さんだけじゃなくて、域外からも、受注を取ってくるのが重要と思います。これはいい取組みで、それをPRしていけば、ああなんか元気な企業があるなっていうイメージが広がっていくと思うので、他市町村から他府県からもいろいろ受注が見込まれると思います。とにかく府内で多分全国的にもこれだけ熱心にやっているとこはそんなにはないと思うので、そこをもっともっとPRして、何か面白そうやな、とっていただければいいのではないかなと。ただ、もう1つは、なかなかネットワークって、結構マンネリ化してくるような気もするので、最初は新鮮でやっていたけど、そのうちにあんまりメンバーも変わらないし、気づきもなかなかなくなってくる、そこで他の人も入れるとか、そういう気のある人を入れないとまとまりがなくなってしまう。

難しいのかもしれないんですけども、メンバーも他からゲストを呼ぶなどの取組みをやっていくというのが重要な気がします。域内受発注そのものは、限界があるので、外から取引を取っていただけたらと思います。

委員： 我々、大阪産業局がMOBIOでやってます。BtoBネットワークがあるんですよ。BtoBネットワークは全国相手なんで、東北の信用金庫さんから九州の信金さんまで入って、何が言いたいかわかりませんが、金融機関に入ってもらいたいよと。金融機関さんというのは大体、各企業さんとのつながりもありますんで、うちはこんなもんが欲しいんですけど、金融機関に聞いたら、そこがBtoBネットワークのコーディネーターさんに言うと、コーディネーターさんがそれに相対する業者を斡旋するというシステムチックにでき上がってるんですけど、だからこれサポートセンターさんに、どれぐらいの人数であるかちょっとわからないんですけども。いっぺんちょっと、もりかどネットワークさんを含めて、もりかどネットワークみたいなものもありますし、これ金融機関も入ってはりますし、それから今おっしゃってる、ものづくり企業ネットワークは100社さん入ってはりますので、その方々さんをどうやってつなぐか、つなげるとか顔が見える関係にするんやったら、やっぱりそういう商売に成り立たんと、なかなかみんな乗ってこえへんのかなと思いますので、銀行さんとも付き合いあるいうてはりますやんか、そこら辺も民間のお客さん担当の人に収集してくれへんかなと頼むのもいいと思います。それから先ほどのセミナーですけども、我々MOBIカフェというのをやってまして、60件ぐらいやっているんですよ。それすべてアンケート取ってます。次こんなやって欲しいと、きちりとして、それを反映させるようにしてるので、大体部屋の関係で30人

から 50 人しか入れへんですけども、大体もう 5 割以上来てますんで、打率的には悪くないなあということで、やっぱり他にもおっしゃいましたけども、絶対向こうが何考えとるか聞いたらなあかんと思うんですよ。それから DX とか GX っていうね、言い方もやめたほうがいいんじゃないかと思います。ものすごい構えはりますね。僕らも後ろに戻ってですね、自動化とか、ロボットとか省力化という言葉を使います。そうしてあげて具体的にお話をもさしてあげたら、来はるのは、来やすくなります。GX でなんとか認定取らなあかんのですけどね、認定通るとこういうメリットあるよって、とれへんかったらこうひっくり返るよ、とうまいこと伝えたらんと、なかなか乗ってきませんわ。ですので、もう少し柔らかい言い方。DX につきましては、1 件 1 件、企業さんに受付けて相談行にきますよ。相談行って、これいけそうやなあと思ったから、この研修を来てくださいと、やってますんで、それほど人員もないかもしれませんが、それやったら MOBIO を紹介してもらったらいいいと思いますんで。ちょっと一歩一歩小さいながらも、今ある既存の MOBIO を使ってもらってもいいし、MOBIO のシステムを真似してもらったらいいいんで、MOBIO のほうに聞きに行きはったらええんちゃうかな、大阪産業局に聞きにきはったらええのかなと、そんなイメージしてます。それから、アーカイブの話がありましたけども、産業の振興のために皮革に関するセミナーをやってます。お店で作ったりしてる職人さんばかりなんで、もう何時から何時まで来いといっても来はりません。だからアーカイブにして、期間限定にして、しかも 1 時間半じゃなくて、20 分ぐらいばらして自分でスマホでみられるようすとかね、それは成功しています。それは邪魔くさいですよ。邪魔くさいけども、視聴率というか、率は上がると思います。

事務局： お話ありがとうございます。特にそうですね、GX っていうと気を張って、ちょっと難しそうやなと思うんですけど。省エネでコストカットとかすれば、またちょっと違う言い方になるかなと思いますし、門真はちょっと見せ方が下手ということで委員からも指摘いただいていますんで、そのあたりちょっと MOBIO さんとは日頃からやりとりをさしていただいていますので、ぜひそういったセミナーもどんなアンケートとっておられるとか、どういうふうな運営をされてるかを早速参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

委員： アンケートはもちろん取ったらいいいのですが MOBIO の担当者は経営者をよく知っていて、経営者の方から様々な声を聞いて企画に活かしている。アンケートは定量的な補足っていう意味合いも強いのではないかと思う。複雑なアンケート

トを毎回取っているわけではないので、どのようなアンケートにすれば良いかの分析を進めるよりは、話を聞ける関係はできているはずだと思うので、課題に思っていることをぶつけて、それに対する答えを聞く方が効果的なのではないか。アンケートを複雑にすると回答率も下がるので。それよりは、声を聞けるところにまず聞いて、こういうふうにしていったらどうだろう、と仮説をぶつけていくことで改善していくほうが早いのではないかと。それと MOBIO さんと一緒にコラボするってこともあるし、先ほどいろいろなネットワークの持っている資源を活用して相乗効果を出すということはどうかと言いましたけども、企業の声聞きながら、それぞれのネットワーク、機関に入っている人の声も聞きながら、それぞれのメリットや効果を高めることを考えていくほうが良いのでは。予算をかけずに事業を行う仕組みがあるというのは、門真の素晴らしい資源だと思います。そこを更に発展させる、伸び悩みがあるとなれば、相乗効果を出させて伸ばしていくっていうのもあるし、会議所だっているいろいろなことをされているので、会員向けっていうのはもちろんあるのしょうけれども、コラボしながらできることはやっていけばいい。それぞれのネットワークなりで何かやりましたというよりも、全体で何ができるかといったことを追求していくということを考えてもいいのではないかと思います。

会 長： おっしゃられるとおりです。大阪府さんがやることと門真市さんがやることは一緒なわけではないんですね。ですから、やはり特に MOBIO とここは近いんで、MOBIO でやってることをあえて門真市さんがする必要はないと思いますんで。そういったいわゆる競合なんかをうまく回避しながら、市役所さんがやることと、ターゲットとするところっていうところが、それを抽出するために、ヒアリング、アンケートっていうのが必要なのかもしれないですね。それはもしかすると、裾野の部分なのかもしれないし、逆に言うと、このネットワーク、ここにもっともっと注力するべきなのかもしれないですし、メリハリのある形で。中間層は逆に言うと、MOBI さんのセミナー紹介して、こっち行って、ぐらいでもいいのかもしれないです。そんなふうに思いました。

委 員： さらに一言、言わしていただくと、マンネリ化してくるとありましたが、アンケートの建付けどうするかも大事ですが、聞くことが出来る人への聞き方を変えていく、今やっていることに対して満足していること、ここはマンネリ化しているからこういう改善があるのじゃないか、ということ聞いてみる。ヘビーユーザーに対するさらなるニーズを追求するために使えると思いますし、参加していない人が参加するためにどうしていったらいいかと、聞く人のレイヤーを見ながら聞くことを変えていくことが、大事ではないでしょうか。

会 長： ありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。万博のイベント重点アクション13も予算はハイフンですけど。

事 務 局： そうですねこちらは、縦割りで申し訳ないのですが、企画課のほうの予算でございまして、産業振興課としては計上はしてないんですが、特にこの中でいいますと、レギュラーイベントですね、先ほどホール借り上げでやるイベントの方は、企画課の方で予算をとっておりまして、いわゆる装飾とかですね、ファサードの設計であるとか、そういった運営の連絡調整とかですね、そういったところを業務委託しております。あと、「たべなはれ」というのもありまして、そこも門真市から御菓子屋さん2社ですね、実際に門真の銘菓をですね、提供するというブースもございます。

委 員： 門真市としての資料なんで、産業振興課の予算やから載せます、企画課の予算は載せませんっていうのは、ちょっと外に対する説明としては、やっぱり綺麗じゃないんで、市としてこんだけ取り組みっていうのをしっかりPRすることなんだと思うんですけども。セクショナリズムが見えて、よけいに何ていうんですか、よろしくないんだと思います。出し方を工夫していただければと思います。

事 務 局： はい。対応します。申し訳ございません。

会 長： ありがとうございます。

委 員： 14番の門真市産業誘導区域移転補助金というのがあるんですが、令和6年度の事業指定が0件となっています。これはどうやって誘導していく制度なんでしょうか。

事 務 局： そうですね。この地図で、これは門真市の地図なんですけど、斜線の赤い部分が産業誘導区域ということで、右にありますとおり、門真市立地適正化計画で令和4年にですね、新たに定めた区域になっています。前提ご説明させていただくと、ここはいわゆる土地利用の用途を調査いたしまして、いわゆる町丁目、中町とか三ツ島1丁目とか、そういった基準で見まして、工場に使われている用途が50%を超えるところ。現状で50%を超えるところがこの産業誘導区域の定義になっております。まずそこがございます。どうやって、誘導していくかっていうところなんですけど、こちらにありますとおり、この赤い線の中で、工場ですね、生産施設を設置または増設等した場合に、固定資産税の一定

額をいわゆるキャッシュバックするという形になりまして、1つの金銭的なインセンティブになります。ただし、ご周知のとおりなんです、なかなか門真市内には土地、そういったもの空いてるまとまった工場用地というものがなかなか出なくてですね、価格も高騰しているっていうふうに聞いておりますので、ちょっとその辺りの土地のマッチングの仕組みとか、そういったものも門真市として進められていないところではございます。ですので、こちら金銭的なインセンティブという形には一応、市としては制度を定めているところではございます。

委員： 赤線のところ、全部とはいませんが、結構、場所がないところに誘導していくんですね。ここに移転しようと思ってもなかなか行先がないという場所になっているのではないかな。それと補助率、上限額が500万/年、300万/年とかになっているんですけど、予算計上額が47万円。ここはどういう関係でこの額ですか。

事務局： これに関しましては、まず事業者さんがここに移転するという計画を市に出していただきます。これを事業指定というのですが、この計画でやってくださいということでまず事業の指定をさせていただきます。そこから企業さんは着工なりされて、新しい工場建てられます。で、建築なので1年近くかかるとか、タイムラグがありまして、ですので我々にとっては事業指定があつて、それが何年後に建物が建つて、そこから初めて1月1日に税金が賦課されるという形になりますので、令和7年度に関しては、いくら具体的にキャッシュバックしなければならないかっていうのは我々の方で把握できるので、タイムラグがあるので。急に申請があつて、その年にお金が必要なのかっていうのではなくて、前から計画を見せていただいているので、この建物はいつ建つていつから税金がかかってきて、いつキャッシュバックしなければならないのかっていうのは前もってわかっています。

事務局： 5年度に事業指定した案件について、税金がかかりだしますので、それに対する補助金の予算となっています。

委員： 年度内では新たに発生しない仕組み。

事務局： 令和5年度に2件の事業指定を実施、この事業概要の真ん中のところに書いているのですが、これが令和7年度に初めて税金がかかってきて、それをキャッシュバックするっていうのが令和7年の予算になっています。だからちょっと

先が見通せるっていうか、急にその年に要るってことは、起こりえない仕組みになっています。

委員： わかりました。ありがとうございます。

会長： K P I が移転件数で、実績は、指定件数が載ってるのですか。

事務局： そうですね。すいません。6年度の実施内容、事業指定0件で移転件数。

会長： K P I なので目標値ですね。

事務局： そうですね、実際の移転件数ですね。

会長： 実移転件数ですか。K P I。

事務局： 一応、この制度を使って移転したっていうことで、数字は拾いたいなと思っていますので、令和6年度に関しては、1件あります。

会長： 目標ですよ、K P I 自体は。

事務局： 事業指定と書いているんですけど、これは実移転件数で言えば、令和6年度は1件になります。

会長： であって、事業指定にはならなかったと。

事務局： 事業指定はなかったです。

会長： 希望がなかったのか、審査してもならなかったとか。ということはK P I の2件に対して、1件しか移転していないと。

事務局： はい。そのとおりです。令和7年度に実移転がもう1件ある予定です。令和5年度に事業指定を2件実施したので、2件のうち1件は、令和6年度に移転が完了しまして、残りの1件が令和7年度に移転が完了するということになっています。繰り返しになりますが、令和6年度に関しては、今までのところ、事業指定が出てきておりません。0件でございます。

会 長： 網掛けのところに集約をしていくということですね。

事 務 局： そうですね。こちらにものづくり産業を集積していく、いわゆるゾーニングになります。まちづくりの中で、この区域の中をものづくり産業の操業維持を図っていくエリアだということで設定しています。

会 長： そのかわり、もうあまり土地がない。委員さんのところも入ってますね。よろしいでしょうか。では、ありがとうございます。それでは一旦本件については、以上とさせていただきます。ご意見いただきましてありがとうございます。

(3) その他

会 長： 続きまして案件(3)、その他に移らせていただきます。事務局より連絡事項等あればお願いいたします。

事 務 局： はい。今後の予定につきましてご説明させていただきます。令和7年度第1回の懇話会の開催につきましては、夏ごろをめどに開催予定としておりますので、皆様どうぞよろしくをお願いいたします。以上でございます。

会 長： はい。ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして、ご意見等ございますでしょうか。

3. 閉会

会 長： はい。それではないようですので、以上をもってですね、本日の懇話会を終了いたします。委員の皆様、長時間にわたりありがとうございます。

以 上